

## モクズガニ種苗を県内河川に放流

水産研究所は、平成26年度から河川放流用のモクズガニ種苗の生産を始め、このたび稚ガニ10万尾を岡山県内水面漁業協同組合連合会を通じて、県内の6漁業協同組合に供給した。

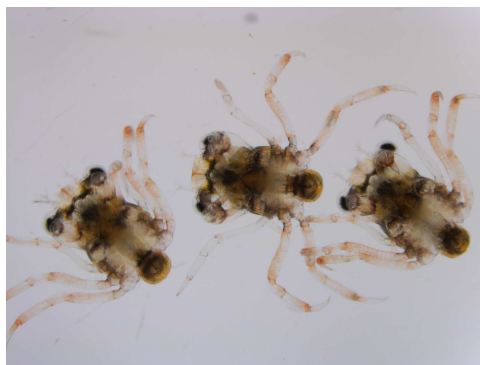
モクズガニはイワガニ科の川ガニで、甲羅の大きさが7～8cm、重さ約180gになる。海で産卵し、稚ガニは川をのぼって成長し、親ガニになるまで2～3年かかる。この春、吉井川の河口で卵を腹部に抱えた親ガニを採集し、その親ガニからふ化した幼生を約1カ月かけて稚ガニに育てた。稚ガニは5月8日と22日に、吉井川や高梁川水系の各

河川支流に放流された。

稚ガニは放流直後にカワムツ、カマツカ等に食害される危険性が高いため、外敵が少なく、隠れ場所となる岩、石がある場所を選んで放流した。甲羅の大きさは3mmと小さいが、長い足を使って素早く河川の上流方向に移動して行った。放流したモクズガニの生態や生き残りについては詳しい調査例が少ないが、どの程度が生き残り、立派に成長するか、2～3年後が楽しみである。今後は漁業者への聞き取り調査等を通じて放流の効果を把握する予定である。(資源増殖室：萱野)



吉井川河口で採捕したモクズガニ



モクズガニのメガロパ幼生



モクズガニの稚ガニ



モクズガニの放流